

お鍬山 植物たより (H27. 10. 15)

お鍬山も実りの秋になりました。山並みを遠景に、展望台の近くに自生している、枝もたわわに実っているヤマガキを眺めるのは気分爽快です。お鍬山の各所に自生のクリの実もおおいそうです。(H25.10.20 掲載)

鶏のささみを枯れ枝につけている人がいました。へぼ(クロスズメバチ)を捕るためだそうです。お鍬山にもへぼがいるようです。へぼ飯を



食べた人もいると思います。お鍬山にはヤマノイモ(ジネンジョ)も多く自生していますが、その人の話では地盤がかたく、途中で折れ曲がってよいヤマノイモは採れないとのことでした。お鍬山も散策だけでなく、こうした利用もあるのかと感心しました。これらも実りの秋というべきでしょう。

実りの秋といえば、クマの好物のドングリが遊歩道に散見します。今年の絨毯に見えるほどには多くはありません。今年は不作のようです。食べるドングリもありますが、お鍬山のドングリは食せません。お鍬山で自生しているドングリの木はアベマキ・コナラ・アラカシ・シラカシです。アベマキは、実であるドングリを包み保護している殻斗(かくと)がらせん状で、ドングリ自体は縦長の円形で他のドングリよりも大きいようです。コナラはお鍬山では多く自生していますが、殻斗がうろこ状で細長い卵型です。アラカシとシラカシのドングリは殻斗が横しまでよく似ていますが、アラカシは横しまがぼやけて浅いお椀型なのに、シラカシは横しまがはっきりしていてドングリに深くかぶさっています。ドングリの形もアラカシが丸い樽型なのに、シラカシは丸い卵型のようです。



アベマキ



コナラ



アラカシ



シラカシ